

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	認識の諸相		
英文授業科目名	Various Views of Recongnition		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-総合講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	島内 景二 ほか		
居室	東1-815(島内)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>わたしたちが生きている世界は、複雑きわまりない。いわば、多面的な構造をしている。どうすれば、世界の全体像がより深く認識できるだろうか。この科目では、さまざまな学問分野の最先端の研究者が、自分の最も得意とする分野での「認識」について語る。</p> <p>諸君は、世の中には「さまざまな認識」の仕方があることを知るだけでなく、それをどう総合すればよいのか、自分はどの認識の仕方を最終的に良しとするか、批判的に考えながら聴講してほしい。</p> <p>講義者の講義と、履修者の思索が一つに合わさったときに、諸君にとっての真実の「認識」が発生することだろう。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特に、なし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特に、なし。

【教科書等】
教科書は、使用しない。毎回、プリントを配布するか、口頭で講義する。

【授業内容とその進め方】

学期はじめの講義の二回目までに、必ず一度は出席してガイダンスを受けること。そうでない学生の履修は、基本的に認めない。このガイダンスで、レポートの書き方と課題を、説明してしまうので、注意してほしい。

ついで、以下の諸先生から、それぞれの専門分野から見た「認識」の話が多種多様に展開される。一人が、二回から四回程度を担当する。

- ・島内景二（文学における認識）
- ・出澤正徳（視覚や錯覚をめぐる認識）
- ・隠岐さや香（西洋科学から見た近代と現代の日本）
- ・深沢英隆（宗教学から見た認識）
- ・執行一利（文化人類学から見た認識）

その他、1～2名の講義者を予定している。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

毎回、出席カードに授業の感想を書いてもらう。その出席点を重視する。

学期末には、レポートを書いてもらう。このレポートの詳細については、必ず最初の二回目までの「ガイダンス」に出席して、よく理解しておくこと。

講義を聴いて、自分の人生についてどのような問題意識を発見したか、とせこまで自発的に読書し思索して、その問題意識に対する解答を見つけようと努力したか。それが、レポートの成績を大きく左右する。

レポートの提出期限や提出場所については、学期末が近づいた時点で、教室で指示する。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

レポートの課題、レポートの提出期限など、学期中に教室で何度も繰り返し指示するので、よく聞いておいてほしい。

【学生へのメッセージ】

講義中のおしゃべりは、厳禁。

また、単に出席カードを書くためだけの目的で、椅子にすわって眠っている学生も、意識を変えてほしい。この講義は、確実に諸君のためになります。

自分がこれまでは自分以外の人たちに操られて「ただ単に操り人形のように受動的に生かされていただけだった」と不満に思っていた諸君は、この講義に参加することで、「自分が責任を持ってこの世界を主体的に生きねばならない」という自覚が、湧いて来ることでしょう。

そういう受動性から能動性への意識改革ができれば、この「認識の諸相」という講義の目標は達成されます。人生は、一度しかありません。ただし、自分と世界に対する認識を変えることで、何回でも生き直すことが可能です。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】